

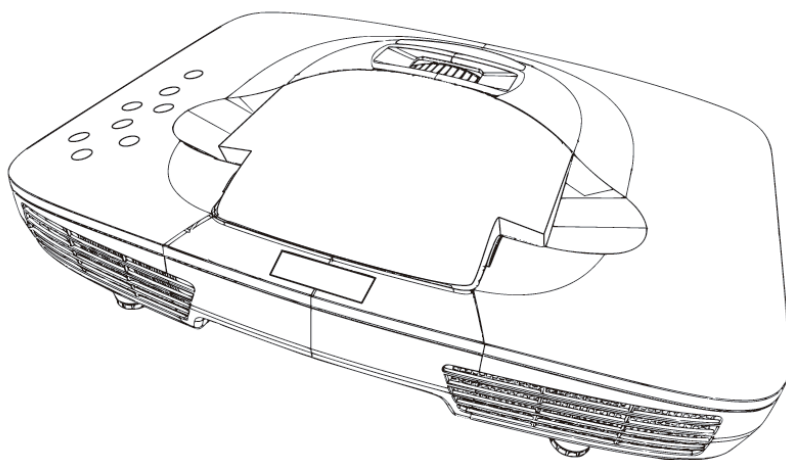
取扱説明書 - 詳細版 -

HITACHI
Inspire the Next

プロジェクター

SP-1J

(形名：SP-1)



このたびは弊社のプロジェクターをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

はじめに

ご使用前に、本機の取扱説明書（「かんたんガイド」および本書）をよくお読みになり、ご理解のうえ正しくご使用ください。

お読みになった後は大切に保管してください。

この製品は保証書付きです。かんたんガイドの巻末にございますので内容をご確認ください。

《本機の特長》

本機は以下のような特長を備えており、幅広い用途でご活用いただけます。

- 本機は、非常に近い距離から大画面投写が可能な超短投写距離プロジェクターです。
- 本機は、HDMI/MHL 端子を備え、フル HD の 1080 p 信号もご覧いただけます。
- 本機は、ワイヤレス LAN 接続をサポートしています。
- 本機は、無線ディスプレイをサポートしています。
Miracast 対応の端末を使って画面のミラーリングができます。
- 本機は、ジェスチャー機能をご利用いただけます。
- 本機は、NFC 機能をご利用いただけます。

お知らせ

- 本書では、ご参照いただきたい記事のページや場所を、次のように記載しています。
例) □□3：本書の 3 ページをご参照ください。
- 本書の内容は、製品の仕様を含め、改良のため予告無く変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の運用結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容の一部、あるいは全部を無断で複製、転載しないでください。
- 本書に記載している挿絵は、説明のための一例です。お客様のプロジェクターとは若干の相違がある場合があります。

《本書の構成》

この「取扱説明書 - 詳細版 -」は、【基本編】、【応用編】、【ネットワーク編】および【技術情報編】の 4 編に分かれています。

【基本編】…………… 1 - 1

【基本編】では、本機の基本的な設定や調節、お手入れ方法などについて説明します。

【応用編】…………… 2 - 1

【応用編】では、本機の詳細な設定や調節を行うメニュー機能についてご説明します。

【ネットワーク編】…………… 3 - 1

【ネットワーク編】では、本機のネットワーク機能について説明します。

【技術情報編】…………… 4 - 1

【技術情報編】では、本機の仕様や、通信機能、またエラーメッセージや故障と思われる現象への対処法についてご説明します。保証やアフターサービスについては巻末をご覧ください。

取扱説明書 - 詳細版 -

プロジェクター

SP-1J

(形名：SP-1)

【基本編】

この基本編では、基本的な設定や調節、お手入れ方法などについて説明します。



警告

ご使用前に、必ず本書を全てよくお読みになり、ご理解のうえ正しくお使いください。

もくじ



はじめに…………… 1 - 2

- 正しくお使いいただくために
- 《必ずお読みください》…………… 1 - 2
- 特長…………… 1 - 3
- 付属品の確認…………… 1 - 11
- 各部の名称…………… 1 - 12

設定…………… 1 - 16

- 設置する…………… 1 - 16
- スタンドを使用する…………… 1 - 19
- 他の機器と接続する…………… 1 - 20
- 電源に接続する…………… 1 - 24

リモコンを準備する…………… 1 - 26

- リモコン信号について…………… 1 - 27
- 簡易マウス/キーボードとして使う …… 1 - 28
- ジェスチャー機能について…………… 1 - 29
- NFC 機能について…………… 1 - 31

電源オン/オフ…………… 1 - 32

- 電源を入れる…………… 1 - 31
- 画像の表示…………… 1 - 33
- 電源を切る…………… 1 - 34

基本操作…………… 1 - 35

- 音量を調節する…………… 1 - 35
- 映像と音のミュート…………… 1 - 35
- 入力信号を選択する…………… 1 - 36
- 傾きを調節する…………… 1 - 37
- フォーカス（焦点）を調節する…………… 1 - 37
- スクリーンの反転…………… 1 - 38
- 映像を静止させる…………… 1 - 38

お手入れ…………… 1 - 39

- プロジェクタのクリーニング…………… 1 - 39

お知らせ

一般仕様については「かんたんガイド」の「ご参考」をご覧ください。

はじめに

正しくお使いいただくために《必ずお読みください》

この製品をご使用になる前に、必ずこの「正しくお使いいただくために」をよくお読みになり、ご理解のうえ正しくお使いください。誤ったご使用や通常の範囲を超える取扱いによる危害や損害については、いかなる場合も弊社は責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

絵表示について

本書ではこの製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損傷を発生する可能性があります。



「注意」を示します。

この記号の後に続けて「気をつけなければならない」ことを記載しています。



「破裂注意」



「感電注意」



「高温注意」



「禁止」を示します。

この記号の後に続けて「してはいけない」ことを記載しています。



「分解禁止」



「水ぬれ禁止」



「ぬれ手禁止」



「強制」を示します。

この記号の後に続けて「必ず行わなければならない」ことを記載しています。



「電源プラグをコンセントから抜け」



「アース線を必ず接続せよ」

お守りください

本機、およびその他の周辺機器を快適にご使用いただくため、この表示に従ってください。

お知らせ

本機や接続する機器などに関する参考情報を記載しています。



警告

異常が発生したら、すぐに電源プラグを抜く

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

次のような場合はすぐに使用を中止し、電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

- ▶ 煙が出ている、へんな臭いがする、へんな音がする。
- ▶ 内部に異物や液体（金属や水）が入った。
- ▶ 落とした、強い衝撃をあたえた。
- ▶ 本機や接続している電源コードやケーブル類に損傷がある。

電源プラグはすぐに抜くことができるように設置してください。

お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。



電源プラグを
コンセント
から抜け

子どもやペットに注意する



誤った取扱いは、火災、感電、けが、やけど、視力障害などの原因となります。

また、電池やその他の小さな部品は、お子様やペットが飲み込むおそれがあります。

お子様やペットが届かないところに設置、あるいは保管してください。

万一、飲み込んだ場合はすぐに医師にご相談ください。

異物や液体を入れない

火災や感電の原因となります。また可燃性の気体や液体が内部に入ると、引火して爆発を引き起こし、火災やけがの原因となります。

万一、異物や液体が入ってしまったら、すぐに使用を中止し、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

▶ 洗剤や殺虫剤などのスプレー（エアゾール製品）を本機に向けて使ったり、本機の周辺で使用したりしないでください。

▶ 花瓶、コップ、化粧品、薬品などの液体の入ったものや、ぬれた雑きんなどを、本機の上や近くに置かないでください。

▶ クリップやピンなどの金属の小物や、紙片などの燃えやすいものを本機の上や近くに置かないでください。

▶ 付属品、信号ケーブル、信号アダプタ以外のものを、本機と一緒に箱やケースに入れないでください。



電源プラグを
コンセント
から抜け

分解しない、改造しない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、火災や感電の原因となります。

▶ 本機のキャビネットや付属品のケースは、本書に記載のある場合を除き、開けないでください。

▶ 本機や付属品を加工しないでください。

▶ 内部の点検、調整、修理、お手入れは販売店にご依頼ください。

衝撃をあたえない



電源プラグを
コンセント
から抜け

ぶつけたり落としたりするとけがや破損、故障の原因となり、そのままご使用になると火災や感電の原因となります。

万一、衝撃をあたえてしまったら、すぐに使用を中止し、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

▶ 移動するときは電源コードや信号ケーブルの接続を外してください。

▶ アジャスタ脚は本体を落とさないように持った状態で操作してください。

▶ 修理や引越しなどの輸送には、お買い上げの際に使用されていた梱包材をご使用ください。

警告

不安定な場所に置かない、不安定な置きかたをしない

落ちたり倒れたりするとけがや破損、故障の原因となり、そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

▶ぐらついた台の上や傾いた場所、振動の多い場所など不安定な場所には置かないでください。



▶本機を置くときは、上面(レンズドアのある面)を上にして置いてください。または、本書に従ってスタンドを正しくご使用になり、背面(スタンドが付いているのと反対側)を上にして置いてください。所定の向き以外で置いたり、レンズドアを開けたまま逆さまに置いたりしないでください。天井設置などの特殊な設置には指定の設置器具(別売)が必要です。必ず事前に販売店へご相談ください。

▶アジャスタ脚の調節以外は傾けて設置しないでください。

油を使用する場所に置かない

油煙などにより油が付着し、故障、火災や感電の原因となります。

また、プラスチックの劣化により、天井や高所設置からの落下など、けがの原因となります。



▶調理台のある場所や機械油などを使用する場所に設置しないでください。

高温に注意する

本機の使用時、排気口や排気口から出る空気は高温になります。周辺に可燃物やスプレー等があると、引火や破裂を引き起こし、火災や怪我の原因となります。また高温部に触れたり近づいたりするとやけどの原因となることがあります。

▶本機の上や周辺に、洗剤や殺虫剤などのスプレーを置かないでください。

▶本機の上や周辺に、燃料や紙などの燃えやすいものを置かないでください。

▶使用中や使用後しばらく、排気口に触れたり近づいたりしないでください。

▶金属の台など、熱の伝わりやすいものの上や近くで本機を使用しないでください。盗難防止用ワイヤー／チェーンを排気口の近くに置かないでください。

▶本機の上や近くに、熱に弱いものを置かないでください。ケーブルや電源コード、リモコンなどを排気口の近くに置かないでください。

▶使用後に本機を移動する場合は、本機を十分冷ましてから行ってください。



高温注意

ぬらさない

本機や電源コードなどがぬれると火災や感電の原因となります。

水を掛けたり、風呂場やシャワー室など水や雨、水滴の掛かる場所に置いたりしないでください。

▶風呂場やシャワー室、台所などに置かないでください。

▶海や川、プールなどの水辺の近くや、屋外には置かないでください。

▶水槽や植木鉢の近くに置かないでください。



水ぬれ禁止

レンズやミラーをのぞかない

本機の使用時は、投写窓から強い光が出ます。視覚障害などの原因となりますので、絶対にのぞかないでください。



指定の電源電圧で使用する

指定の電圧以外でのご使用は、火災や感電の原因となります。

必ず、本体に表示されている指定電圧、交流 100V のコンセントに接続してご使用ください。



警告

電源コードや電源アダプター、信号ケーブルやコネクタは所定のものを使用する



仕様の合わない電源コードや信号ケーブルを使用すると、火災や感電、故障や電波妨害の原因となります。

本機に付属しているものは必ず付属品をご使用ください。傷や破損がある場合は使用せず、販売店にご相談ください。付属品以外の接続ケーブルやコネクタは、販売店にご相談のうえ適切なものをご使用ください。本機に付属の電源コードは本機の専用品です。他の機器には使用できません。

電源コードや電源アダプター、信号ケーブルやコネクタを傷つけない



損傷のある電源コードや電源アダプター、信号ケーブルなどを使用すると、火災や感電の原因となります。

傷や破損がある場合は使用せず、販売店にご相談ください。

- ▶ 本機など、重い物を載せないでください。
- ▶ ヒーターや本機の排気口の近くなど、高温になる場所に置かないでください。
- ▶ コードやケーブル部分を持って引っ張らないでください。
- ▶ 投げたり、ひきずったりしないでください。
- ▶ 加工したり、無理に曲げたり、加熱したりしないでください。
- ▶ 電源コードをプロジェクタ本体で踏みつけないでください。

ぬれた手で電源を接続したり外したりしない



ぬれ手禁止

感電の原因となります。

ぬれた手で電源コードや電源アダプターを取り扱わないでください。

電源プラグは付着物をふき取ってから使用する



本機の電源端子や電源コード、電源アダプターのプラグ (刃) 部分やその周辺に、ほこりや金属類などが付着していると、火災や感電の原因となります。

必ず接続の前に、乾いた布などで取り除いてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



電源の接続が不完全の場合、感電の原因となったり、発熱して火災の原因となります。電源コードや電源アダプターを接続するときは、根元まで確実に差し込んでください。

- ▶ ゆるみやがたつきのあるコンセントは使用しないでください。
- ▶ たこ足配線はしないでください。

アース線を必ず接続する



アース線を必ず接続せよ

アース線を接地しないと、火災や感電、電波妨害の原因となります。

本書の「電源に接続する」(☐1-24)に従って、正しく接続してください。

- ▶ 2つ穴コンセントを使用する場合は、付属の電源アダプターをご使用になり、必ずアース線を接続してください。
- ▶ アース線を接続するときは、電源アダプターをコンセントに差し込む前に、アース線をアース端子に接続してください。
- ▶ アース線を外すときは、先に電源アダプターをコンセントから抜いてから外してください。

アース線をコンセントに差し込まない



アース線をコンセントに差し込むと、火災や感電の原因となります。

アース線はアース端子以外には接続しないでください。

警告

お手入れするときは電源プラグを抜く



電源プラグを
コンセント
から抜け

電源プラグを接続したままでお手入れすると、火災や感電の原因となります。
お手入れするときは、電源を切り、電源プラグを抜いてください。

電池の取扱いに注意する



電池の取扱いを誤ると、破裂や発火、液漏れなどして、火災やけが、人体への傷害、周囲の汚染の原因となります。また電池は小さいのでお子様やペットが飲み込むおそれがあります。
万一、飲み込んだ場合はすぐに医師にご相談ください。

液漏れしたときは、**すぐに乾いた布などで漏れ液をふきとって、新しい電池を入れてください。** 漏れ液が皮膚や衣服に着いた場合は、**すぐにきれいな水で洗い流してください。** 目などに入った場合は、**すぐにきれいな水で洗い流し、医師にご相談ください。**

▶交換するときは指定のタイプ (☐ 1-26) の新しい (未使用) 電池を使用してください。傷のある電池は使用しないでください。

▶リモコン裏面に記載の極性表示 (⊕、⊖) に従って正しく入れてください。

▶リモコンを長時間使用しない場合はリモコンから電池を取り出して保管してください。

▶火や水に入れないでください。火気、高温、湿気を避け、暗く涼しく乾燥したところに保管してください。

▶子どもやペットが届かないところに保管してください。

▶衝撃をあてないでください。投げたり落としたりしないでください。

▶充電、短絡、分解、加工、はんだ付けなどしないでください。電池の電極部に金属を接触させないでください。ピンセットなどの金属製の物で持たないでください。

▶廃棄するときは、廃棄を行う地域の規則 (条例など) に従ってください。

屋外で使用しない、同じ周波数を使用する機器の近くで使用しない

本機は、5GHz 帯の電波を使用します。本機を屋外で使用することは法令により禁止されています。本機と同じ周波数帯を使用する機器の近くで使用すると、電波干渉によって機器の誤動作の原因となり、人体への障害を招くことがあります。次のような環境では使用しないでください。



▶飛行機の中

▶ペースメーカー等の医療機器や産業・科学機器の近く

▶工場の製造ライン等で使用される移動体識別用の構内無線局 (免許を必要とする無線局) の運用範囲

▶特定小電力無線局 (免許を必要としない無線局) の運用範囲

▶電子レンジの近く

無線 LAN の適合証明の印字を削らない。ラベルをはがさない。



法令により禁止されています。

 **注意****重い物を載せたりぶら下げたりしない**

不安定になって落ちたり倒れたりするとけがや破損、故障の原因となったり、そのまま使用すると火災や感電の原因となることがあります。



- ▶本機の上に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。
- ▶本書に指定のある場合や所定の別売品（販売店にお尋ねください）以外は、本機に取り付けたりぶら下げたりしないでください。

湿気、ほこりの多いところ、タバコの煙や湯気などの当たるところ、塩害のおそれのあるところに置かない

内部にほこりなどがたまると、火災や感電の原因となったり、故障や映像不良の原因となることがあります。また超音波式加湿器などで、水道水に含まれる塩素やミネラル成分が霧化されて本機に付着すると、故障や映像不良の原因となることがあります。湿気やほこりの多いところには置かないでください。



- ▶海や川、プールなどの水辺の近くや、屋外には置かないでください。
- ▶調理台、加湿器、植木鉢の近くなど、湿気の多いところに置かないでください。
- ▶喫煙所や人通りの多い場所に置かないでください。

高温になるところに置かない

内部温度が上がり過ぎると、本機の電源が自動的に切れたり、火災や故障の原因となることがあります。また熱や温風を当てるとキャビネットなどが傷む原因となることがあります。



- 温度が高くなるところには置かないでください。
- ▶直射日光の当たるところ、ヒーターやエアコンの噴出し口の近くなど、熱源の近くや温風が当たるところには置かないでください。
 - ▶本機や付属品を電子レンジに入れないでください。

通風口をふさがない

通風が正常に行われないと内部温度が上がり過ぎて、本機の電源が自動的に切れたり、火災や故障の原因となることがあります。



- ▶風通しの良いところに、周辺の壁や物から 30cm 以上離して設置してください。
- ▶吸気口や排気口をふさいだり、近くに物を置いたりしないでください。
- ▶布団やカーペット上に置いたり、布などを被せたりしないでください。
- ▶布や紙などの吸い付く物を、吸気口の近くに置かないでください。

注意

磁気を発生するものを近づけない



本機に磁気を近づけたり、磁気を発生するものの近くに置いたりすると、冷却ファンが止まったり回転速度に異常を生じることがあります。内部温度が上がり過ぎると、本機の電源が自動的に切れたり、火災や故障の原因となることがあります。

▶ 付属品、本書に示される指定品を除き、磁気シールドが施されていない磁気製品（磁気による盗難防止装置など）を本機に使用したり近づけたりしないでください。

使用しないときは電源プラグを抜く



電源プラグを
コンセント
から抜け

本機の電源を完全に切るためには電源プラグをコンセントから抜いてください。

長時間ご使用にならない場合は、電源を切り、電源プラグを抜いてください。電源プラグを接続したまま放置すると、火災などの原因となることがあります。

電源プラグはすぐに抜くことができるように設置してください。

落雷のおそれがあるときは使用しない



電源プラグを
コンセント
から抜け

火災や感電の原因となることがあります。

落雷のおそれがあるときは、使用を中止し、電源プラグを抜いてください。

レンズやミラーのクリーニングに掃除機を使わない



掃除機を使うと故障の原因となる場合がありますので、使用しないでください。

年に一度は内部のお手入れを販売店に依頼する



内部にほこりなどがたまると、火災や感電の原因となったり、故障や映像不良の原因となることがあります。

年に一度は、内部の点検と掃除を販売店にご依頼ください。

▶ お客様による内部のお手入れは危険ですので絶対におやめください。

▶ 内部のお手入れは、湿気の多くなる梅雨期の前が効果的です。

お守りください

テレビやラジオ近くで使用しない

ラジオやテレビなどの放送受信装置に近接して使用すると、装置の受信障害の原因となることがあります。

ネットワーク接続の前にネットワーク管理者に相談する

ネットワークへ接続する際は、事前にネットワーク管理者にご相談し、その指示に従って設定を行ってください。

リモコンに衝撃をあたえないでください

破損や故障の原因となることがあります。

- ▶ リモコンを投げたり落としたりしないでください。
- ▶ 上に乗ったり重い物を載せたりしないでください。

リモコンをぬらさないでください

故障したり、電池が液漏れする原因となることがあります。

- ▶ 水を掛けたり、ぬらしたり、ぬれるところに置いたりしないでください。

リモコンと本機の受光部の間に物を置かないでください

リモコン送信の障害となって、リモコンが利かなくなることがあります。

レンズやミラーを傷つけないでください

破損や故障の原因となったり、映像不良の原因となることがあります。

- ▶ レンズやミラーに硬いものを当てたり、こすったりしないでください。お手入れは市販のレンズクリーニングペーパー（カメラやメガネの清掃用）をご使用ください。

レンズやミラーに何かを張り付けたり、密着させて置いたりしないでください

高温となって投写窓が融け、映像不良の原因となることがあります。

レンズやミラーに直接手を触れないでください

レンズやミラーがくもったり、汚れたりすると、映像不良の原因となることがあります。

光源や直射日光などの強い光を避けて設置してください

リモコン受光部に強い光が当たると、リモコンが正常に働かないことがあります。

電波を発生するものを避けてください

本機の近くで電波を発生する装置を使用すると、映像が乱れる原因となることがあります。携帯電話やトランシーバなどは本機から離れて使用ください。

電源は正しい手順で切ってください

正しい手順をふまずに電源プラグを抜いたりすると、冷却が正常に行われず、本機の寿命を縮めたり、投写ライトがつきにくくなる場合があります。非常時を除き、電源は決められた手順(▶▶ 1-34)で切ってください。

- ▶ 停電などによって、正しい手順をふまずに電源を切った（切れた）場合は、電源プラグを抜き、放置して十分冷ましてください。

電源を入れるときは他の機器より先に、切るときは他の機器より後に行ってください

接続している他の機器（コンピュータやビデオプレーヤなど）のトラブルを防ぐため、特に指定のない場合、本機の電源の操作は、他の機器の電源が切れている状態で行ってください。

キャビネットやリモコンの取扱い、お手入れについて

取扱いやお手入れの方法を誤ると、表面が変質したり塗装がはがれることがあります。お手入れは正しい方法で行ってください。

- ▶ ゴムやビニール製品を長時間接触させたままにしないでください。
- ▶ ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品や、溶剤、研磨剤などは使用しないでください。
- ▶ スプレーは使用しないでください。ガスや霧が本機の内部に入って、故障などの原因となることがあります。
- ▶ 化学雑きんなどのご使用については、その注意書に従ってください。

長時間見るときは、ときどき目を休めてください

長時間連続して画面を見ると目が疲れます。ときどき画面から離れて目を休めてください。

梱包材は大切に保管してください

修理や引越しなどの輸送には、お買い上げの際に使用されていた梱包材をご使用になり、正しく梱包してください。

お知らせ

●寿命部品について

光学部品 (LED、DLP[®] チップ、レンズなど) および冷却ファンは寿命部品です。長時間お使いになると修理交換が必要になります。

▶本機は長時間連続使用を想定して設計されたものではありません。毎日6時間以上ご使用になる場合は、1年未満でも寿命部品の交換が必要になることがあります。また6時間以上の連続使用や、短時間でも繰り返しご使用になったりすると、寿命部品の交換サイクルは早くなります。

▶本機を傾けて使用すると、部品の寿命を縮めることがあります。アジャスタ脚の調節範囲以外は傾けて使用しないでください。

●映像特性について

本機はDLP[®]を使用した投写装置です。投写面 (スクリーンや壁面など) の特性により、映像の色あいやコントラストが、テレビやコンピュータのモニタとは異なることがあります。故障ではありません。

偏光スクリーンでは画面が赤味を帯びて見える場合があります。ご使用にならないでください。

▶ロールアップ式スクリーンなど、投写面がたわんだり揺れたりするスクリーンでは、投写映像に大きな歪みが生じるため、ご使用になれません。ボード式スクリーンなど、平板な面へ投写してご使用ください。

▶スクリーンゲインの高いビーズタイプは適していません。ゲイン1.0程度の広視野角タイプ (マットタイプ) を推奨します。

▶スクリーンの織目とDLP[®] 画素の干渉縞 (モアレ) が発生する場合があります。故障ではありません。モアレ発生を抑えたスクリーンをご使用ください。

▶本機は、スクリーンへの光線入射角度が大きいため、白色映像表示時において、スクリーンの種類や見る角度によって投写面に色がついて見える場合があります。故障や不具合ではありません。

●輝点、黒点について

本機はDLP[®] パネルを使用した投写装置です。画面上に輝点 (光ったままの点) や黒点 (光らない点) が見られることがありますが、DLP[®] 特有の現象であり、故障ではありません。

●結露にご注意ください

本機を、低温の室外から高温の室内に持ち込んだ場合など、本機の投写窓の内部に結露が生じ、映像がぼやけたり、見えなくなったりすることがありますが、故障ではありません。

本機が周囲の温度に慣れるに従って露が消え、映像は正常にもどります。

●冷却ファンの騒音について

本機は、使用環境に合わせて冷却ファンの回転速度を制御する機能を備えています。周囲の温度が高いと冷却ファンの回転速度も速くなり、騒音も大きくなります。また、映像モードの設定、またはピクチャクオリティの設定ではファン回転速度も速くなり、騒音も大きくなります。

●この製品 (付属品を含む) は日本国内でのみ、ご使用になれます。

この製品は日本国内専用に設計されていますので、日本国外ではご使用にならないでください。この製品の保証書は日本国内でのみ有効です。また有償/無償にかかわらず、日本国外でご使用の場合には、修理等のご依頼に応じることができませんのでご了承ください。

This product (including the accessories) is designed for use in Japan only, and cannot be used in any other countries. The warranty appended to this product is void out of Japan. For use out of Japan, we will not accept paid or free requests such as the repair.

●電源高調波について

JIS C 61000-3-2 適合品

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 - 第3-2部: 限度値 - 高調波電流発生限度値 (1相当の入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

●無線LANについて

▶本機は、下記チャンネルを使用します。

2.4GHz 帯域: 1 ~ 11ch

5GHz 帯域: W52 (36, 40, 44, 48ch)

(J52 との接続には対応していません)

▶このプロジェクターは電波法が認定する2.4GHz および5GHzの無線モジュールを備えています。使用が許される周波数帯域幅は、国・地域の電波管理規制によって異なります。

5.15-5.25GHzの周波帯は屋内での使用に限定されています。

▶国外・地域外でこのプロジェクターを使用しないでください。法律に違反する場合があります。

▶このプロジェクターを屋外で使用しないでください。

▶このプロジェクターと同じ周波数帯を使用する装置やラジオ局の作動範囲で使用すると、無線障害を引き起こすことがあり、その結果、重大な事故や通信障害につながる恐れがあります。

▶次の状況では、このプロジェクターを使用しないでください。

- ペースメーカー、電子レンジなどのISM (産業・科学・医療) 装置の近く

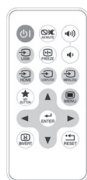
- 飛行機の中

- 設計小電力無線局 (許可を要しない) の作動領域内、または無線局 (操業許可を要する) 構内

付属品の確認

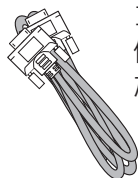
この製品にはプロジェクター本体（本機）の他に、以下のものが含まれています。

リモコン



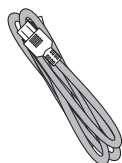
リチウム
電池入り

コンピュータケーブル

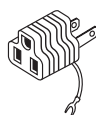


コンピュータの映像
信号を本機に入力する
ためのケーブルです。

電源コード



電源アダプター



電源コードと
二つ穴コンセント
をつなげる
アダプタです。

かんたんガイド



本機をご利用いただくのに便利な、
簡易版 取扱説明書です。
本機と一緒に保管し、
必要なときにご参照ください。

警告



- 電源コードや信号ケーブルを傷つけない
本機など、重い物を載せないでください。



- 電池の取扱いに注意する
子どもやペットが届くところに放置しないでください。

お守りください

- 梱包材は大切に保管してください。
修理や引越しなどの輸送には、お買い上げの際に使用されていた梱包材をご使用になり、正しく梱包してください。

各部の名称

プロジェクター（本機）

レンズドア

 手を挟まないよう注意

手動で開閉します。裏側にミラーが取り付けられています。

コントロールパネル

本機を操作するためのアイコン、および本機の状態をお知らせするインジケータです。

ジェスチャーセンサー

ジェスチャー動作を検出します。

背面

NFC アンテナ

ここに NFC 対応機器をタッチすると NFC 機能が有効になります。

吸気口

本機内に空気を取り込む入り口です。物や手などでふさがないようにください。

AC（電源端子）

電源コードを接続します。

スピーカー

ここから音声が出ます。

リモコン受光部

リモコンからの信号を受け取ります。

吸気口

本機内に空気を取り込む入り口です。物や手などでふさがないようにください。

ミラー

 のぞかない

映像が投写されます。本機使用中は強い光が出ますので、絶対ののぞかないでください。

レンズドア

 手を挟まないよう注意

端子カバー（端子パネル）

端子カバーを開けると端子パネルがあります。コンピュータや DVD プレーヤなどと接続します。

排気口 高温注意

本機内部の排熱口です。大変熱くなりますので、本機を使用中、使用後しばらくは、近づいたり触れたりしないでください。

前面

排気口 高温注意

本機内部の排熱口です。大変熱くなりますので、本機を使用中、使用後しばらくは、近づいたり触れたりしないでください。

底面

アジャスタ脚

本機の傾きを調節します。前部に二本あります。

フォーカスリング

フォーカスを調節します。

スタンド

机上投写時に使います。

前面

背面

警告



●衝撃をあたえない

本機を移動する際に、ぶつかけたり落としたりしないようご注意ください。



高温注意

●高温に注意する

使用中や使用後しばらく、排気口に近づいたり、ランプカバーに触れたりしないでください。



手を挟まれないよう注意

●レンズドアで手や指を挟まないよう注意する

レンズドアで手や指を挟むと、けがの原因となることがあります。レンズドアの開閉部や内側に手や指を置かないでください。

注意

- 端子カバーをつかんでプロジェクターを持ち上げないでください。プロジェクターを落とすと、けがやプロジェクターの故障を招く恐れがあります。
- 端子カバーを強く引っ張らないでください。端子カバーを損傷する恐れがあります。



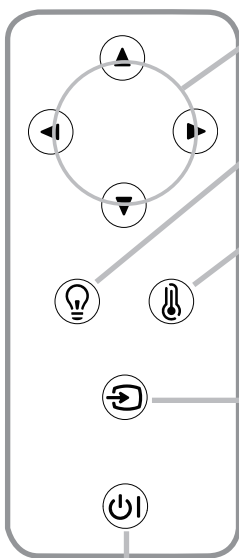
●レンズやミラーをのぞかない

本機の使用中は、レンズやミラーから強い光が出ます。視覚障害などの原因となりますので、絶対にのぞかないでください。

▶明るい光源と同じように、ビームをのぞき込まないこと。

RG2 IEC 62471-5:2015

操作パネル



カーソルアイコン (▲ / ▼ / ◀ / ▶)

(メニュー画面などの操作に使用します。)

ライトインジケータ

本機のライトの状態についてお知らせします。

温度インジケータ

本機内部の温度状態についてお知らせします。



入力切替アイコン

映像信号を切り替えます。



スタンバイ / オンアイコンおよび電源インジケータ

ライトの点灯 / 消灯 (スタンバイ) を切り替えます。本機の電源の状態をお知らせします。

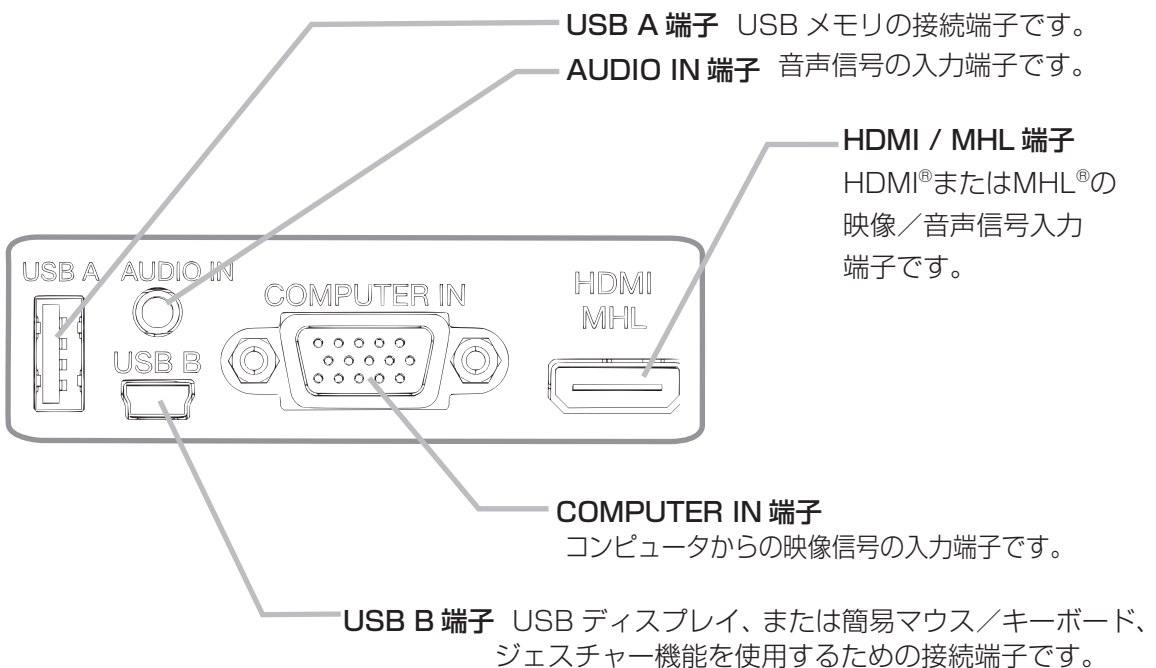
注意

●このプロジェクタの操作パネルは、高感度のタッチスイッチになっています。指でアイコンに軽く触れることで、操作出来ます。指で強く押ししたり、先の尖ったもの(爪/ボールペン/ピンなど)を押し付けたりしないでください。

以下の場合、操作パネルに触れても動作しない、または誤動作の原因となりますので、ご注意ください。

- ・手袋をしたままでの操作
- ・爪の先での操作
- ・異物を操作面に乗せたままでの操作
- ・保護シートやシールを貼った状態での操作
- ・濡れた手による操作
- ・強い電波を発生する物の近くでの操作

端子パネル



リモコン

Standby/ Onボタン

ライトの点灯／消灯（スタンバイ）を切り替えます。

USB ボタン

USB A または USB B 入力を選択します

HDMI ボタン

HDMI または MHL の入力信号を選択します。

FREEZEボタン

一時的に表示画面を静止させます。

COMPUTERボタン

コンピュータからの映像信号を選択します。

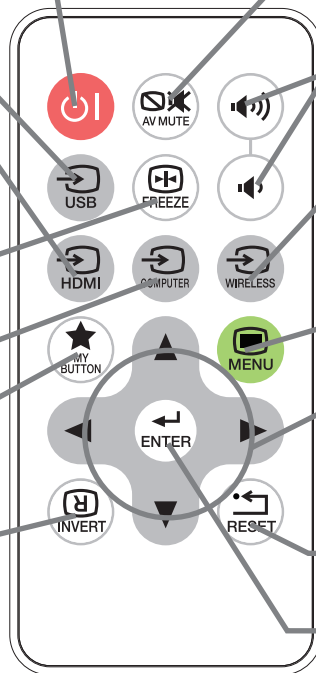
MY BUTTONボタン

好みの機能を設定できます。

INVERT ボタン

画面を上下左右反転します。

前面



AV MUTE ボタン

一時的に画像と音声を消す時に使用します。

VOLUME + / - ボタン

音量を調節します。

WIRELESS ボタン

ワイヤレス入力を選択します。

MENUボタン

メニュー画面を表示します。

カーソルボタン (▲ / ▼ / ◀ / ▶)

メニュー画面の操作などに使用します。

RESETボタン

ENTER ボタン

お知らせ

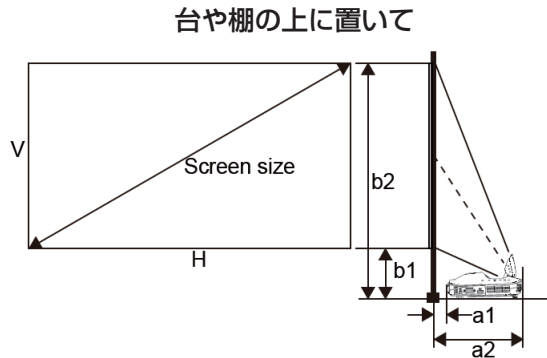
- リモコンの各機能は、信号などの条件によって動作が異なる場合があります。
- 詳しくは、各参照ページをお読みください。

準備・設置

プロジェクターを使用される環境や方法に応じて設置してください。

設置する

本機は、高温、湿気、ほこりや直射日光を避け、安定した涼しい場所に設置してください。ご使用環境に合わせ、設置の方法と位置を決めてください。本機とスクリーンの距離については下表をご参照ください。下表の数値はフルスクリーンの場合の参考値（± 10%）です。



Full size screen(1280x800)

Screen size(diagonal)		HxV		a1	a2	b1	b2
type[inch]	[m]	[m]	[m]	[m]	[m]	[m]	[m]
36	0.9	0.8	0.5	0.000	0.198	0.150	0.635
40	1.0	0.9	0.5	0.017	0.215	0.163	0.702
45	1.1	1.0	0.6	0.039	0.237	0.180	0.786
50	1.3	1.1	0.7	0.060	0.258	0.197	0.870

Screen size(diagonal)		HxV		a1	a2	b1	b2
type[inch]	[m]	[inch]	[inch]	[inch]	[inch]	[inch]	[inch]
36	0.9	30.5	19.1	0.0	7.8	5.9	25.0
40	1.0	33.9	21.2	0.7	8.5	6.4	27.6
45	1.1	38.2	23.8	1.5	9.3	7.1	30.9
50	1.3	42.4	26.5	2.4	10.2	7.8	34.3

警告



- 異常が発生したら、すぐに電源プラグを抜く
電源プラグはすぐに抜くことができるように設置してください。



- 高温に注意する
熱の伝わり易いものや燃え易いもの、熱に弱いものの上や近くで本機を使用しないでください。



- 分解しない、改造しない
本機や付属品を加工しないでください。



- 衝撃をあたえない
本機を移動する際に、ぶついたり落としたりしないようご注意ください。



- 不安定な場所に置かない、不安定な置きかたをしない
ぐらついた台の上や傾いた場所、振動の多い場所など不安定な場所には置かないでください。
▶キャスター(車)付きの台に載せる場合は必ずキャスター(車)止めをしてください。
▶アジャスタ脚の調節(☐1-37)以外は傾けて設置しないでください。
▶本機の側面、前面を下にして置かないでください。背面を下にして縦置きにする場合は指定の器具が必要になります。販売店へご相談ください。
▶設置器具は、指定品をご使用になり、天吊り(天井設置)、壁掛けなどの特殊な設置は、必ず販売店にご依頼ください。



- ぬらさない、ぬれる場所に置かない、油煙の当たるところに置かない
風呂場やシャワー室、調理台のある場所や機械油などを使用する場所などに置かないでください。海や川、プールなどの水辺の近くや屋外には置かないでください。水槽や植木鉢の近くに置かないでください。本機や電源コードがぬれると火災や感電の原因となります。



- 高温になるところに置かない
直射日光の当たるところ、ヒーターやエアコンの噴出し口の近くなど、熱源の近くや温風が当たるところには置かないでください。



- 通風口をふさがない
風通しの良いところに、周辺の壁や物から30cm以上離して設置してください。
通風口をふさいだり、近くに物を置いたりしないでください。
本機は底部にも吸気口があります。布団やカーペット上に置いたり、布などを被せたりしないでください。布や紙、テーブルクロスなどの吸い付く物を、吸気口の近くに置かないでください。

注意



- 湿気、ほこりの多いところ、タバコの煙や湯気などの当たるところ、塩害のおそれのあるところに置かない
調理台、加湿器、植木鉢の近くなど、湿気が多いところに置かないでください。特に超音波式加湿器などの近くでは、水道水に含まれる塩素やミネラル成分が霧化されて本機に付着すると、画像劣化や故障などの原因となることがあります。喫煙所や人通りの多い場所に置かないでください。



注意 (つづき)



●磁気を発生するものを近づけない

付属品、本書に示される指定品を除き、磁気シールドが施されていない磁気製品 (磁気による盗難防止装置など) を本機に使用したり近づけたりしないでください。



●高地モードを誤った設定のまま使用しない

「高地モード」(2-27) が正しく設定されているか、ご確認ください。誤った設定のままご使用になりますと、部品の信頼性などに影響を与える恐れがあります。



●光源や直射日光などの強い光、また、電波を発生するものを避けて設置してください。

お守りください

- 本機とスクリーンとの間に障害物がないことをよく確認してください。

お知らせ

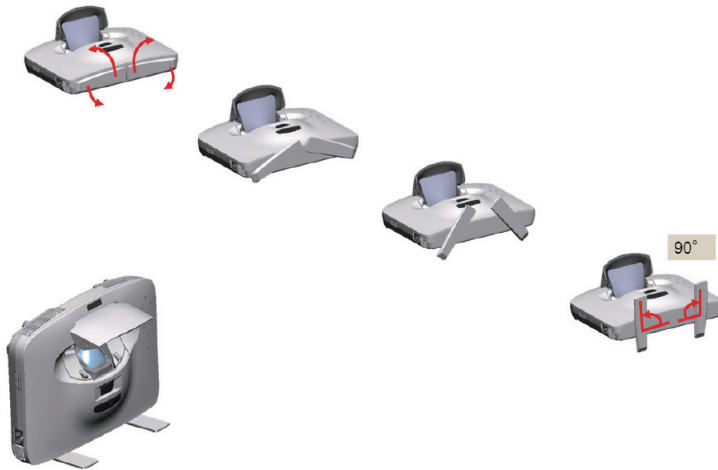
●本機の特性について

本機は、非球面ミラーを応用した超短投写距離を特長としており、その構造上、以下のような特性をもっています。予めご了承ください。

- ▶ ロールアップ式スクリーンなど、投写面がたわんだり揺れたりするスクリーンでは、投写映像に大きな歪みが生じるため、ご使用になれません。ボード式スクリーンなど、平板な面へ投写してご使用ください。
- ▶ スクリーンゲインの高いビーズタイプは適していません。ゲイン 1.0 程度の広視野角タイプ(マットタイプ) を推奨します。
- ▶ スクリーンの織目と液晶画素の干渉縞 (モアレ) が発生する場合があります。故障ではありません。モアレ発生を抑えたスクリーンをご使用ください。
- ▶ 本機の位置や高さが僅かでも変化すると、投写映像は大きく移動したり、歪みが生じたりします。
- ▶ 本機は周囲温度などの影響で、投写位置がずれたり、画面が歪んだり、フォーカスが変動することがあります。ライトが点灯してから性能が安定するまでの約 30 分程度は、特に変化が生じ易くなりますので、必要に応じて確認と再調整を行ってください。
- ▶ フォーカスを調節すると、画面上部のサイズが変化します。画面の位置や角度を調節する前に、フォーカス調節を行ってください。
- リモコン受光部に蛍光灯などの不要な光が入ると、リモコンが正常に動作しないことがあります。この場合には本機の位置を調節してください。
- 天井りや壁掛け設置にすると、本機はプラスチック製のため、映像表示位置が変わることがあります。再設定が必要な場合は、販売店または業者にお問い合わせください。
- 本機は、スクリーンへの光線入射角度が大きいため、白色映像表示時において、スクリーンの種類や見る角度によって投写面に色がついて見える場合がありますが、故障や不具合ではありません。
- 映像モードの設定、またはピックアップオリティの設定で、周辺温度 27 ~ 35°C の場合には、自動的にエコモードになります。

スタンドの使い方

机上投写を行う際は、スタンドを使用します。図の通りスタンドを中心より外側へ90°開き使用します。



注意 (つづき)



●スタンドを無理に回さない

逆方向または90°の可動範囲以上へ無理な力を加えないでください。スタンドが破損する恐れがあります。

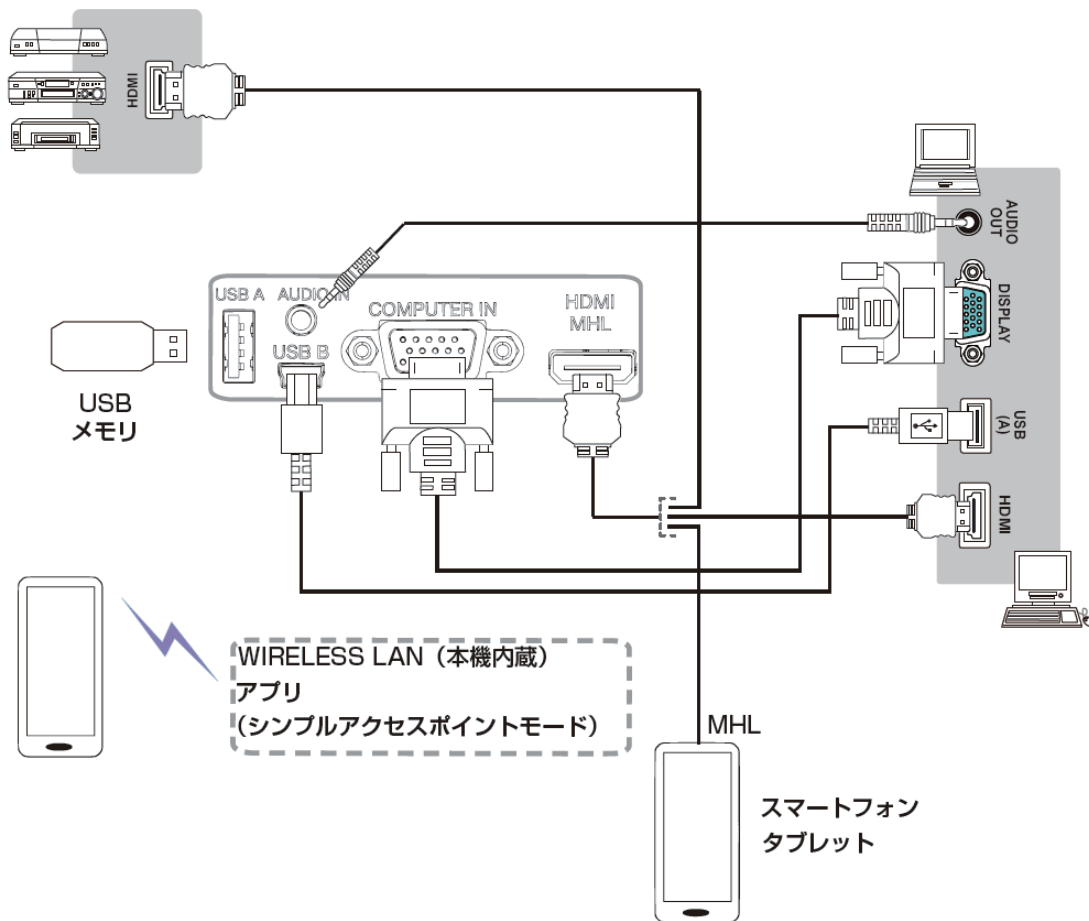
お守りください

- 机上投写時はスタンドを90°まで確実に開いてください。机上投写時スタンドを90°まで開かずに使用すると所定の映像性能が得られません。

スタンドをつかんで持ち上げたり、スタンドを広げた状態で本体を持ち上げたり搬送しないでください。スタンドが破損する恐れがあります。

他の機器と接続する

接続の前に、本機と接続してご使用になる機器の説明書をよくお読みください。信号によっては、特定のアダプタが必要な場合や、本機では正しく表示できない場合があります。解像度などの仕様が本機に合うことを確認し、必要な信号ケーブルやアダプタを準備してください。本機の端子形状は【技術情報編】「入出力信号端子」(P4-5~7)をご覧ください。



- USB メモリ (USB 記録装置) を **USB TYPE A** 端子に挿入し、**USB TYPE A** 端子からの映像信号を選択すると、USB メモリに保存されている画像を本機で投影することができます (☞2-36)。
- 本機の **USB TYPE B** 端子とコンピュータの USB(A) 端子を接続すると、リモコンを簡易マウス／キーボードとして (☞1-28)、あるいは USB ケーブルを経由してコンピュータ画面を本機に転送し、USB ディスプレイ (☞2-46) として本機を使用することができます。



警告



分解禁止

●分解しない、改造しない

本機や付属品を加工しないでください。

**●信号ケーブルやコネクタを傷つけない**

傷や破損がある場合は使用せず、販売店にご相談ください。本機など、重い物を載せないでください。ヒーターや本機の排気口の近くなど、高温になる場所に置かないでください。コードやケーブル部分を持って引っ張らないでください。投げたり、ひきずったりしないでください。加工したり、無理に曲げたり、加熱したりしないでください。

**●信号ケーブルやコネクタは所定のものを使用する**

本機に付属しているものは必ず付属品をご使用ください。付属品以外の信号ケーブルやコネクタは、販売店にご相談のうえ、適切なものをご使用ください。

注意



●接続するときは電源プラグを抜く

接続作業は、本機や接続する機器の電源を切ってください。本機の電源を完全に切るためには電源プラグをコンセントから抜いてください。接続中は本書に指示が無い限り、電源の操作は行わないでください。接続先の機器や本機の故障の原因になります。



●接続はコネクタの形状や向きを確かめながら、正しく行う

正しく接続されていないと本機や接続される機器の故障の原因になります。固定ネジがあるものはネジをきちんと締めて固定してください。



●本機の各接続端子は凹んでいるので、L形ではなく、ストレート形プラグのケーブルを使用する



●USB メモリを取り外す時は、データ保護のため、必ず先にサムネイルメニュー (☐2-39) から「USB メモリ取外し」を実行するか、本機の電源を切る



●LAN 端子への接続は、事前にネットワーク管理者に相談する

ネットワークによっては過度の電圧をもつものがあります。過度の電圧を生じる可能性があるネットワークは、安全のため、LAN 端子に接続しないでください。

お知らせ

- ノートパソコンや、ディスプレイ一体型コンピュータなどと接続する場合は、RGB 外部映像出力を有効 (LCD と CRT の同時表示または CRT の設定) にしてご使用ください。詳しくはご使用になるノートパソコン、ディスプレイ一体型コンピュータの説明書をご覧ください。
- 入力信号によっては、本機の自動調整機能 (☐2-11) が正しく働かなかったり、映像を表示できなかつたりすることがあります。また複数の表示モードを持つコンピュータでは、本機が対応していないモードを含む場合があります。あらかじめご確認ください。
- コンピュータ上で解像度を切り替えるとき、本機の自動調整機能が正常に動作しなかつたり通常より時間が掛かたりすると、解像度切替えのための画面表示が確認できず、もとの解像度に戻ってしまうことがあります。このような場合は、別の表示装置を使って解像度を切り替えてください。
- 本機は VESA DDC 2B に対応しています。本機を VESA DDC (Display Data Channel) 対応のコンピュータに接続してご使用になると、プラグ & プレイを実現できます。
※プラグ & プレイは、コンピュータと、表示装置などの周辺機器、およびオペレーティングシステムによって構成されるシステムです。
 - ・本機の **COMPUTER IN** 端子とコンピュータの RGB 外部出力端子を付属のコンピュータケーブルで接続してご使用ください。
 - ・本機は「プラグ & プレイ・モニタ」として認識されます。このとき、ディスプレイドライバは標準のものをご使用ください。
 - ・接続するコンピュータによってはプラグ & プレイが動作しない場合があります。
- USB A 端子は USB メモリを接続する目的であり、3m 以上の延長ケーブルのご使用はサポートしていません。

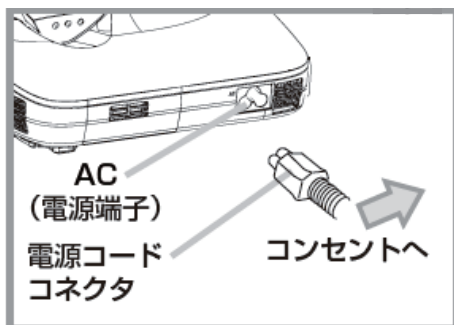
お知らせ

- 本機の対応信号については、【技術情報編】「コンピュータ信号について」(P4-2, 3)、および「入出力信号端子」(P4-4~8)をご参照ください。
- 本機の HDMI 端子は HDCP (High-bandwidth Digital Content protection) に対応しています。HDCP 対応の DVD プレーヤなどのビデオ信号を表示することができます。
- 本機は、以下の HDMI 信号に対応しています。
 - ビデオ信号 : 480i@60, 480p@60, 576i@50, 576p@50, 720p@50/60, 1080i@50/60, 1080p@50/60
 - オーディオ信号 : リニア PCM フォーマット
 - サンプリング周波数 48kHz/44.1kHz/32kHz
- 一部の HDMI[®] 出力機器では、接続しても正常に映像を表示できない場合があります。
- HDMI[®] ケーブルは、HDMI[®] ロゴ付きのものをご使用ください。
- 本機に 1080p@50/60 信号を入力するには、カテゴリ2の HDMI[®] ケーブルを使用してください。
- 本機を DVI 出力機器に接続するには、DVI-HDMI[®] 変換ケーブルをご使用ください。
- 本機は、以下の MHL 信号に対応しています。
 - ビデオ信号 : 480i@60, 480p@60, 576i@50, 576p@50, 720p@50/60, 1080i@50/60, 1080p@50/60
 - オーディオ信号 : リニア PCM フォーマット
 - サンプリング周波数 48kHz/44.1kHz/32kHz
- 一部の MHL[®] 出力機器では、接続しても正常に映像を表示できない場合があります。
- 必ず MHL[™] ロゴの入った MHL[™] ケーブルをお使いください。
- 無線接続では、使用しているスマートフォンや電波環境条件により接続できない場合があります。また、壁越しでの使用は利用できません。
- 伝送品質の悪い HDMI ケーブルを使用すると映像、音声が正常に動作しない場合があります。

電源に接続する

本機の電源端子と AC(交流)100V の電源コンセントを、付属の電源コードと必要に応じて電源アダプターで接続してください。

しばらくして、コントロールパネルの電源インジケータが橙色に点灯します。

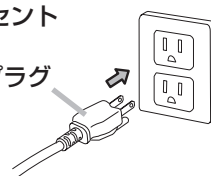


■3つ穴コンセントをご使用のとき

1. 電源コードのコネクタ側を本機の電源端子に接続してください。
2. 電源プラグをコンセントに接続してください。

3つ穴コンセント

電源プラグ



■2つ穴コンセントをご使用のとき

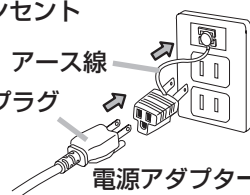
1. 電源コードのコネクタ側を本機の電源端子に接続してください。
2. 電源アダプターのアース線をコンセントのアース端子に接続してください。
3. 電源アダプターをコンセントに接続してから、電源プラグを電源アダプターに接続してください。

2つ穴コンセント

アース線

電源プラグ

電源アダプター



お知らせ

- 「その他」メニュー (☞2-24) で「ダイレクトパワーオン」を「有効」にすると、電源に接続したとき、自動的に本機の電源が入ることがあります。

警告



- 異常が発生したら、すぐに電源プラグを抜く
電源プラグはすぐに抜くことができるように設置してください。



- 指定の電源電圧で使用する
必ず、本体に表示されている指定電圧、交流 100V のコンセントに接続してご使用ください。



- 電源コードや電源アダプターは付属品を使用する
電源コードや電源アダプターは本機に付属のものをご使用ください。傷や破損がある場合は使用せず、販売店にご相談ください。



- 電源プラグは付着物をふき取ってから使用する
必ず接続の前に、接続部やその周辺に付着しているほこりや金属類などを取り除いてください。



- 電源プラグは根元まで確実に差し込む
ゆるみやがたつきのあるコンセントは使用しないでください。
▶たこ足配線はしないでください。



- アース線を必ず接地する
2つ穴コンセントを使用する場合、付属の電源アダプターをご使用になり、必ずアース線を接続してください。アース線の接続は電源アダプターをコンセントに差し込む前に、アース線を外すときは電源アダプターをコンセントから抜いてから、行ってください。



- 電源コードや電源アダプターを傷つけない
傷や破損がある場合は使用せず、販売店にご相談ください。本機など、重い物を載せないでください。ヒーターや本機の排気口の近くなど、高温になる場所に置かないでください。コードやケーブル部分を持って引っ張らないでください。投げたり、ひきずったりしないでください。加工したり、無理に曲げたり、加熱したりしないでください。電源コードをプロジェクトタ本体で踏みつけしないでください。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源を接続したり外したりしない
ぬれた手で電源コードや電源アダプターを取り扱わないでください。



- アース線をコンセントに差し込まない
アース線はアース端子以外には接続しないでください。

お守りください

- 接続している他の機器（コンピュータやビデオプレーヤなど）のトラブルを防ぐため、特に指定のない場合、本機の電源の操作は、接続している他の機器の電源が切れている状態で行ってください。

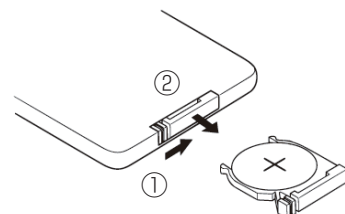
リモコンを準備する

購入後初めて本機を操作するときは、リモコン内の電池に取り付けてある保護フィルムを取り外してください。

交換する：

リモコンが誤動作するようになったら電池を交換してください。

1. リモコンを裏側にしてください。
2. 右図のように、①電池ホルダの溝部をつまんで、②電池ホルダを引き出してください。
3. 電池ホルダより電池を取り外します。
4. リモコン裏面に記載の図のように極性表示（⊕、⊖）に従って正しく電池（マクセル 型名 CR2032）を電池ホルダに入れてください。
5. 音がするまで電池ホルダをリモコンに押し込みます。




警告

●電池の取扱いに注意する

取扱いを誤ると、破裂や発火、液漏れなどして、火災やけが、人体への傷害、周囲の汚染の原因となります。また電池は小さいので、お子様やペットが飲み込むおそれがあります。

万一、電池を飲み込んだ場合はすぐに医師にご相談ください。

液漏れしたときは、すぐに乾いた布などで漏れ液をふきとって、新しい電池を入れてください。漏れ液が皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。目などに入った場合は、すぐにきれいな水で洗い流し、医師にご相談ください。

▶電池は、必ず指定のタイプ（ 上記）の新しい電池を使用してください。損傷のある電池は使用しないでください。

▶リモコン裏面に記載の極性表示（⊕、⊖）に従って正しく入れてください。

▶リモコンを長時間使用しない場合は、リモコンから電池を取り出して保管してください。

▶火や水に入れないでください。火気、高温、湿気を避け、暗く涼しく乾燥したところに保管してください。

▶子どもやペットが届かないところに保管してください。

▶衝撃をあたえないでください。投げたり落としたりしないでください。

▶充電、短絡、分解、加工、はんだ付けなどしないでください。電池の電極部に金属を接触させないでください。ピンセットなどの金属製の物で持たないでください。

▶廃棄するときは、廃棄を行う地域の規則（条例など）に従ってください。

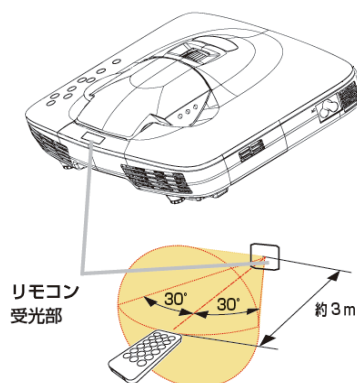


破裂注意

リモコン信号について

付属のリモコンは、本機のリモコン受光部へ信号を送って機能します。リモコン信号は、受光部への入射角度上下左右に各30°、距離約3mの範囲で有効です。

リモコン信号は、スクリーンなどに反射させて操作できる場合もあります。(反射面によっては反射できない場合もあります。) また、受光部に蛍光灯などの不要な光が入ると、リモコンが正常に動作しないことがあります。この場合には本機の位置を調節してみてください。



警告



●高温に注意する

排気口の近くにリモコンを置かないでください。

高温注意



●分解しない、改造しない

リモコンを加工しないでください。

分解禁止


お守りください

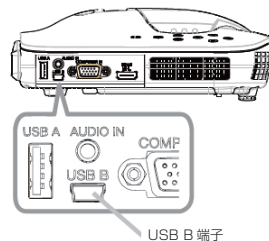
- リモコンに衝撃をあたえないでください。
リモコンを投げたり落としたり、上に乗ったり重い物を載せたりしないでください。
- リモコンに水を掛けたり、リモコンをぬらしたり、ぬれるところに置いたりしないでください。
- リモコンと本機の受光部の間に物を置かないでください。
リモコンは赤外線で本機に信号を送っています。(クラス1 LED 製品) リモコンと本機の受光部の間に障害物があると、リモコンが利かないことがあります。
- 光源や直射日光などの強い光を避けて設置してください。
リモコン受光部に強い光が当たると、リモコンが正常に働かないことがあります。

簡易マウス／キーボードとして使う

本機のリモコンを簡易的なマウスやキーボードとしてご使用になることができます。

■準備

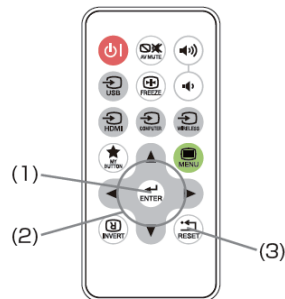
1. 本機の USB TYPE B 端子とコンピュータの USB(A) 端子を USB ケーブルで接続します。
2. 「その他」メニューの「USB TYPE B」( 2-25) を「マウス」に設定してください。



■リモコンボタンの機能

下記のリモコンボタンがマウスやキーボードとして機能します。


- (1) **ENTER ボタン**：
マウスの左ボタンとして機能します。
- (2) **カーソルボタン** (▲、▼、◀、▶)：
マウスカーソルが移動します。
- (3) **RESET ボタン**：
マウスの右ボタンとして機能します。



お守りください

- 本機の USB TYPE B 端子は、コンピュータの USB(A) 端子以外には接続しないでください。簡易マウス／キーボード機能の間違ったご使用は、接続機器の破損の原因となることがあります。本機と接続する前に、ご使用になるコンピュータの説明書をよくお読みください。

お知らせ

- 本機の簡易マウス／キーボード機能は、Windows® XP SP3 以上の OS を搭載し、汎用 USB マウス／キーボードを使用できるコンピュータでご使用いただけます。ただしコンピュータの設定やマウスドライバによってはご使用になれない場合もあります。
- ノートパソコンなどで、トラックボールのようなポインティングデバイスが内蔵されている場合、本機の簡易マウス／キーボード機能をご使用になるには、あらかじめコンピュータの BIOS メニューで内蔵のポインティングデバイスを無効、外部マウスを有効に設定してください。設定については、ご使用になるコンピュータの説明書に従ってください。
- 本機の簡易マウス／キーボード機能では、2 つ以上のボタンやスイッチの同時操作は無効です。
- 本機の簡易マウス／キーボード機能は、本機が正常動作しているときにのみ有効です。
- 本機の簡易マウス／キーボード機能は、以下の場合には無効です。
 - 本機がウォームアップ中 (電源インジケータが緑色の点滅) ( 4-35)。
 - USB TYPE A 端子または USB TYPE B 端子からの映像信号を選択している。
 - メニューやダイアログなどが表示されている。または、カーソルボタンで操作している。

ジェスチャー機能について

画面上でジェスチャーすることで、PC またはタブレットの Page up/Page down の操作をすることができます。

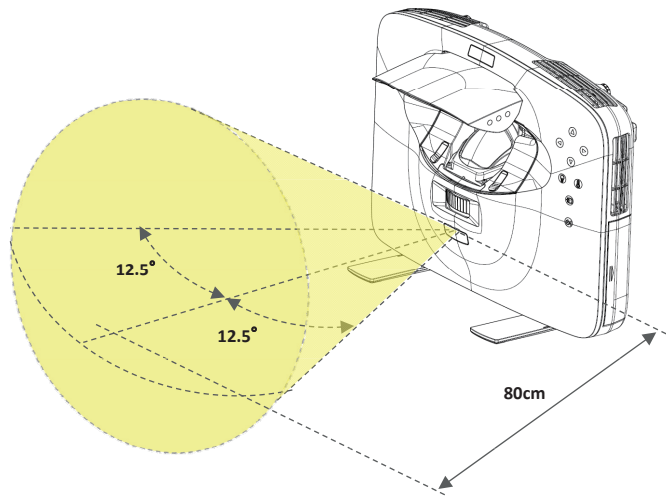
また、PC レスプレゼンテーションでもご利用いただけます。

準備

- (1) 本機の **USB B** 端子とご使用のコンピュータの USB(A) 端子を USB ケーブルで接続します。
- (2) 「その他」メニューの「USB TYPE B」を「マウス」に設定してください。
- (3) 「その他」メニューの「ジェスチャー」を「有効」にしてください。

ジェスチャー領域について

プロジェクターの中心に対し、上下左右 12.5°、80cm の範囲で有効です。



お知らせ

- 本機のジェスチャー方式は手の温度を感知する方式です。そのためジェスチャーの認識できる距離や感度は周囲の温度により変わります。また、直射日光が当たる場所、周囲温度 30℃以上の場所や熱源の近くでのご使用は、動作や感度が悪くなる場合があります。
- メニューでのジェスチャー機能「無効」の設定時はジェスチャー機能の全ての操作が無効になります。
- 無線（スマートフォン / タブレット）でのご使用
プレゼン用アプリ「Projector Link+」（専用アプリ）でご利用になれます。
無線の環境により動作が遅くなる場合があります。

ジェスチャー機能について (つづき)

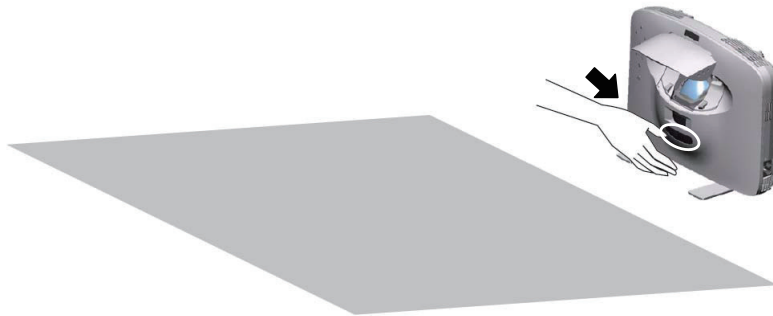
操作一覧

(1) 画面操作モードの ON/OFF

手でジェスチャーセンサ部を斜め上から覆います。

画面操作モードが有効になると、画面の右上に手の形のアイコンが表示されます。

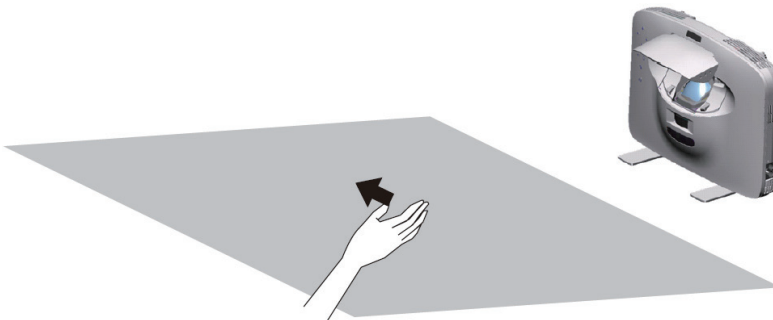
画面操作モードでジェスチャーセンサ部を再度覆うと、画面操作モードは解除されます。



(2) Page down

画面操作モード時に、画面に対して手を右から左へワイプします。

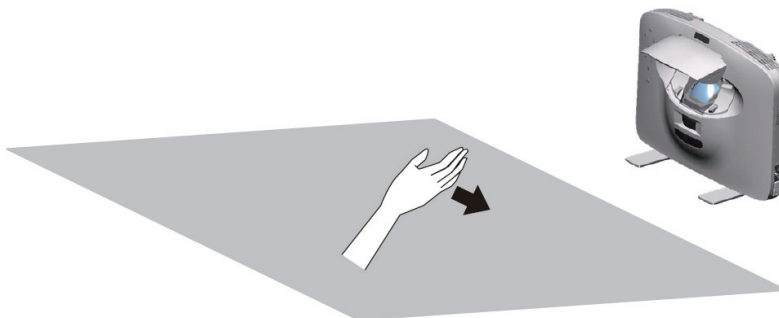
- PC またはタブレットに対して Page down が送信されます。
- PC レスプレゼンテーションでは Page down の操作が行われます。



(3) Page up

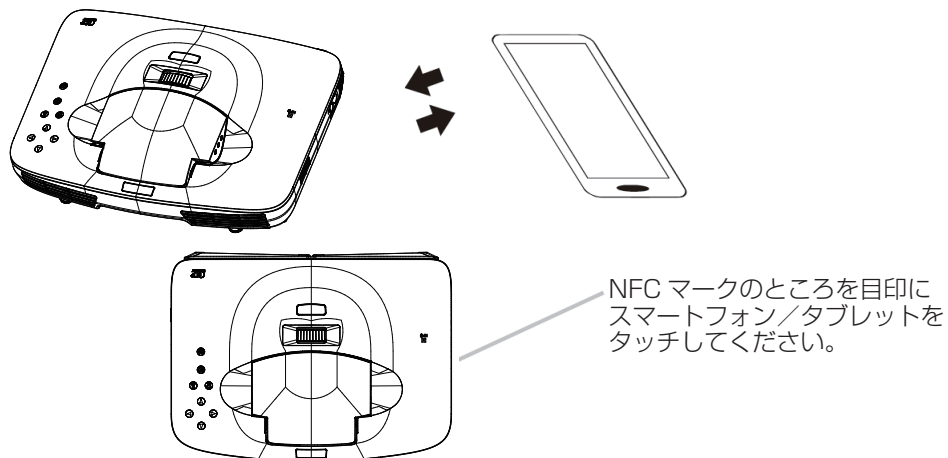
画面操作モード時に、画面に対して手を右から左へワイプします。

- PC またはタブレットに対して Page up が送信されます。
- PC レスプレゼンテーションでは Page up の操作が行われます。



NFC 機能について

本機は NFC(Near Field Communication) に対応しています。
NFC 対応のスマートフォン / タブレットをプロジェクタの NFC マークにタッチすることで、以下の機能が実現できます。



スマートポスター機能

スマートフォン / タブレットを本機の NFC マークにタッチすると、スマートフォン / タブレットは NFC のタグ（内蔵）に書かれた URL に自動的にアクセスし、Web ページを開くことができます。（ご購入時にはプロジェクタの URL が書かれています。
URL <http://www.hitachi.co.jp/proj/>

Wi-Fi ハンドオーバー（自動接続）

専用のアプリを起動してスマートフォン / タブレットを本機にタッチすることで、本機とスマートフォン / タブレットとの無線接続を自動で行う機能です。
詳細はネットワークガイドを参照ください。

お知らせ

- プロジェクタの NFC マークにスマートフォンかタブレットをかざす際は強くぶつけないようにご注意ください。
- プロジェクタの NFC マークにスマートフォンかタブレットをかざす際は NFC マークの中心に平行になるようかざしてください。中心にかざしても読み取れない場合は、スマートフォンかタブレットを少し浮かす、または前後左右にずらしてかざしてください。
- プロジェクタの NFC マークとスマートフォンかタブレットの間に金属物があると読み取れないことがあります。NFC マークの付近にシールなどを貼りつけると、通信性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。
- スマートフォンまたはタブレットの NFC 機能をオンに設定して使用してください。
- スマートフォンやタブレットのモデルによっては NFC 通信を利用できない場合があります。

電源オン / オフ

電源を入れる

1. 電源コードが正しく接続され、操作パネルの電源インジケータが橙色に点灯していることを確認してください。
2. レンズドアを開いてください。
3. プロジェクター上のスタンバイ / オンアイコンにタッチするか、リモコンの **Standby/On** ボタンを押します。ライトが点灯し、電源インジケータが緑色の点滅を始めます。ライトが点灯すると、スタートアップ画面が表示されます。電源インジケータは点滅をやめ緑色に点灯します。レンズドアが閉じている場合は、ライトは点灯しません。



警告



● 投写窓をのぞかない

本機の使用中は、投写レンズやミラーから強い光が出ます。視覚障害などの原因となりますので、絶対にのぞかないでください。



高温注意

● 高温に注意する

使用中や使用後しばらく、排気口に近づいたり投写レンズやミラーに触れたりしないでください。

お守りください

- 本機の電源は他の機器より先に入れてください。

接続している他の機器（コンピュータやビデオプレーヤなど）のトラブルを防ぐため、特に指定のない場合、本機の電源の操作は、他の機器の電源が切れている状態で行ってください。

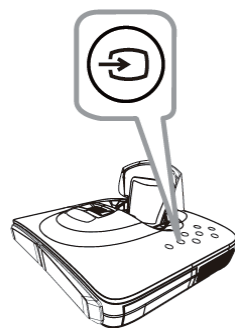
お知らせ

- 「その他」メニュー（ 2-24）の「ダイレクトパワーオン」を「有効」に設定している場合、電源を入れる操作を行わなくても自動的に本機の電源が入ることがあります。

画像の表示

1. 周辺機器をオンにし、信号をプロジェクターに送ります。
2. プロジェクター上の**入力切替**アイコンにタッチします。
入力切替アイコンにタッチするたびに、プロジェクターが入力端子を切り替えます。リモコンを使って入力信号を選択することもできます。
USB ボタン：
 USB A 端子または USB B 端子を選択
HDMI ボタン：
 HDMI/MHL 端子を選択
COMPUTER ボタン：
 COMPUTER IN 端子を選択
WIRELESS ボタン：
 WIRELESS 入力を選択
3. **VOLUME+** / **VOLUME-** ボタンを使ってボリュームを調節します。プロジェクターの音を消したいときは、リモコンの **AV MUTE** ボタンを押してください。
4. 投写画面を見ながら、フォーカスリングで映像の焦点を合わせてください。

入力切替アイコン



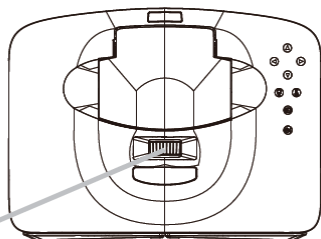
COMPUTER ボタン

WIRELESS ボタン



USB ボタン

HDMI ボタン



フォーカスリング

VOLUME+ ボタン

VOLUME- ボタン

AV MUTE ボタン



⚠ 注意

- プロジェクターのライトを点灯させたまま投写を中断したい場合は、リモコンの AV MUTE ボタンをご利用ください。その他の動作はプロジェクターの損傷につながる場合があります。

お知らせ

- 操作中にノイズや瞬間的なスクリーンのちらつきを生じることがありますが、これは誤動作ではありません。

電源を切る

1. プロジェクター上のスタンバイ/オンアイコンにタッチするか、リモコンの **Standby/On** ボタンを押してください。
「電源を切りますか？」のメッセージが約 5 秒間画面に表示されます。
2. メッセージが表示されている間に、もう一度スタンバイ/オンアイコンにタッチするか、**Standby/On** ボタンを押してください。
絶対にレンズやミラーをのぞかないでください。
プロジェクターのライトが消えて、電源インジケータが橙色の点滅を開始します。ライトの冷却が完了すると、電源インジケータが点滅をやめて通常の橙色の点灯になります。
3. 電源インジケータが通常の橙色に変わった後で、レンズドアを閉めてください。

警告



- 指をレンズドアに挟まれて怪我をしないよう注意してください。
- 映像品質を低下させないよう、ミラー表面に触らないでください。
- レンズをのぞかない**
本機の使用中は、レンズやミラーから強い光が出ます。視覚障害などの原因となりますので、絶対にのぞかないでください。



高温注意

- 高温に注意する**
使用中や使用後しばらく、排気口に近づいたり、レンズやミラーに触れたりしないでください。



電源プラグを
コンセント
から抜け

- 使用しないときは電源プラグを抜く**
本機の電源を完全に切るためには電源プラグをコンセントから抜いてください。

お守りください

- 本機の電源は他の機器より後に切ってください。
接続している他の機器（コンピュータやビデオプレーヤなど）のトラブルを防ぐため、特に指定のない場合、本機の電源の操作は、他の機器の電源が切れている状態で行ってください。

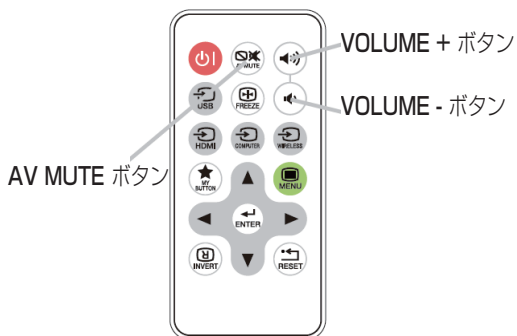
お知らせ

- 「その他」メニューの「オートパワーオフ」(M2-25) を「有効」に設定している場合、電源を切る操作を行わなくても自動的に本機の電源が切れることがあります。

基本操作

音量を調整する

1. 音量を調整するには、VOLUME + / - ボタンを使います。
音量の調節中は画面上にダイアログが表示されます。なにも操作が行われないと、ダイアログが数秒後に自動的に消えます。
 - 「オーディオ」メニューの「音声入力設定」(2-18) で * が選択されている端子からの入力信号を選択しているときには、音量は調節できません。
 - プロジェクターがスタンバイモードの時は、音量を調節できません。



映像と音のミュート

1. リモコンの AV MUTE ボタンを押します。
映像と音を元に戻すには、AV MUTE または VOLUME + か VOLUME- ボタンを押します。

注意

- プロジェクターのライトが点灯している時に AV ミュート機能を使います。

お知らせ

- 操作中にノイズや瞬間的なスクリーンのちらつきを生じることがありますが、これは誤動作ではありません。

警告



- ライト点灯中に映像を消すには、指定の方法を使用する

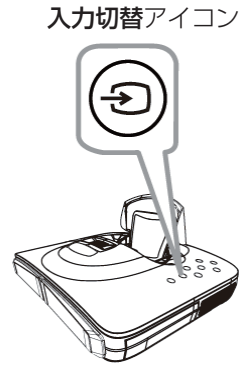
ライト点灯中に映像を消したい場合には、上記の AV ミュート機能を使用してください。投写レンズやミラーの前に物を置いたり、投写レンズやミラーに紙や布などを貼ったりすると、投写レンズやミラーを損傷するおそれがありますので、おやめください。

入力信号を選択する

1. プロジェクター上の入力切替アイコンにタッチしてください。
入力切替アイコンをタッチするたびに、プロジェクターは入力端子を現在の端子から次のように切り替えます。

HDMI/MHL → COMPUTER IN
↑ ↓
USB B ← USB A ← WIRELESS

- 「その他」メニューの「オートサーチ」(図2-28)が「有効」に設定されている場合は、正常な入力信号を検出するまで、各端子を自動的に検索します。
- **USB TYPE B** 端子からの映像を表示するには数秒かかることがあります。

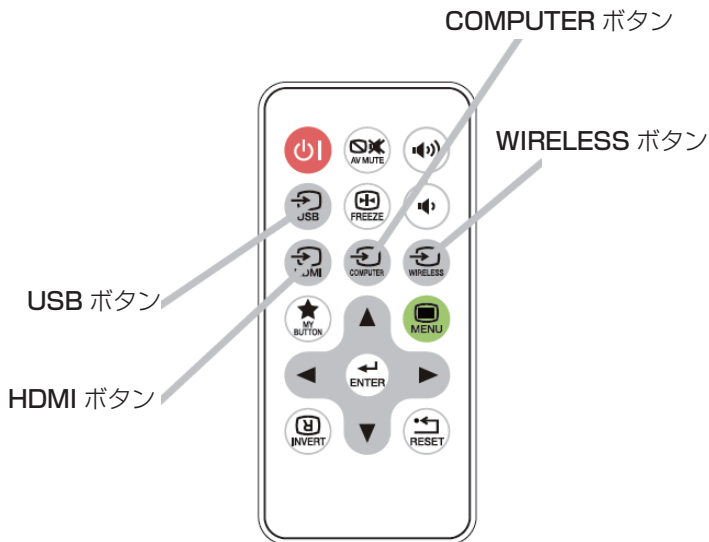


リモコンで入力信号を選択することもできます。

USB ボタン : **USB A** 端子または **USB B** 端子を選びます。ボタンを押すたびに、プロジェクターは入力端子を現在の端子から次のように切り替えます。



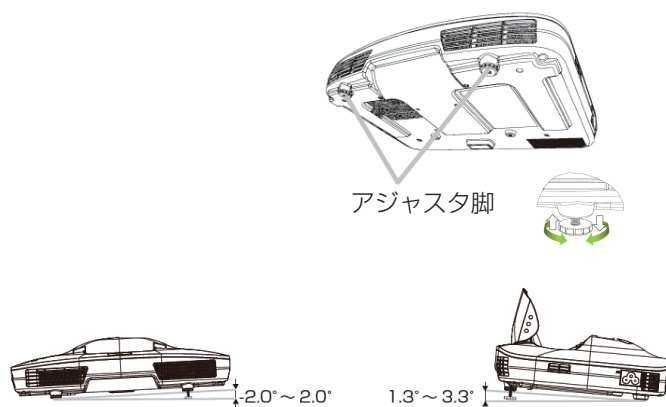
HDMI ボタン : **HDMI/MHL** 端子を選択
COMPUTER ボタン : **COMPUTER IN** 端子を選択
WIRELESS ボタン : **WIRELESS** 入力を選択



傾きを調節する

本機には、前に2本、アジャスタ脚があります。2本の脚で、前後傾きおよび水平傾きを調節することができます。

設置面や投写面に合わせて本機の傾きを調節するには、アジャスタ脚をネジのように回してください。



警告



●**衝撃をあたえない**

アジャスタ脚は本体が不安定にならないように、しっかり支えた状態で操作してください。



●**不安定な場所に置かない、不安定な置きかたをしない**

アジャスタ脚の調節以外の方法で傾けて設置しないでください。



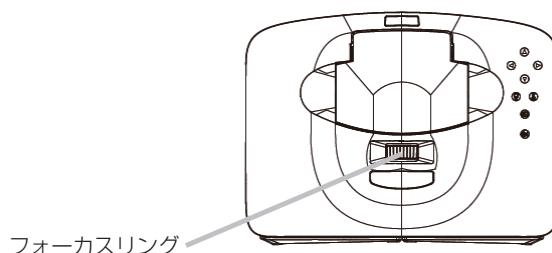
●**傾けて使用しない**

傾けての使用は、設置面に対し、前上がりに $1.3^{\circ} \sim 3.3^{\circ}$ 、左右に $-2.0^{\circ} \sim 2.0^{\circ}$ 内で設置してください。それ以上の角度に傾けた状態でのご使用は故障や寿命を縮める原因となります。アジャスタ脚の調節以上には傾けて設置しないでください。

フォーカス（焦点）を調節する

投写画面を見ながら、フォーカスリングを回してフォーカス（焦点）を調節してください。

絶対にレンズやミラーをのぞかないでください。

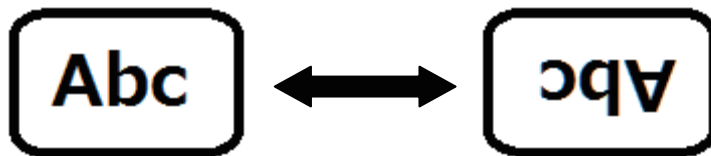


スクリーンの反転

リモコンの INVERT ボタンを押します。

プロジェクターは反転モードになり、映像が 180 度回転します。

反転モードを終了してスクリーンを通常の状態に戻すには、もう一度 INVERT ボタンを押します。

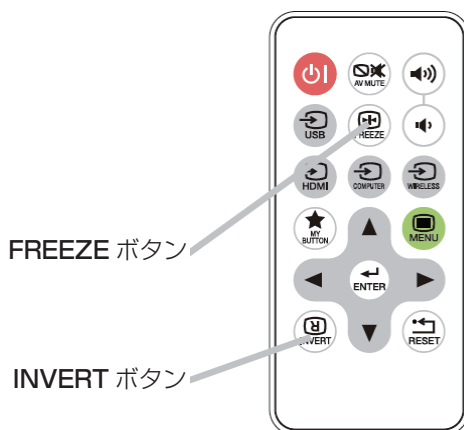


映像を静止させる

1. リモコンの FREEZE ボタンを押すと「静止」ダイアログが表示され、映像が静止します。「スクリーン」メニューの「メッセージ」を「表示しない」に設定していると、「静止」ダイアログは表示されません。映像の静止を解除するには、もう一度 FREEZE ボタンを押してください。



- コントロールパネルのアイコンにタッチしたときにも、映像の静止を終了します。
- 映像を静止させたとき画像が劣化して表示されることがありますが、故障ではありません。

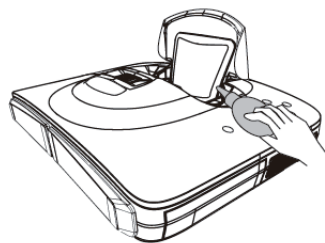
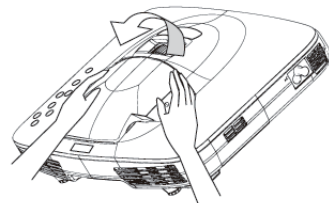


プロジェクターのクリーニング

レンズやミラーのお手入れ

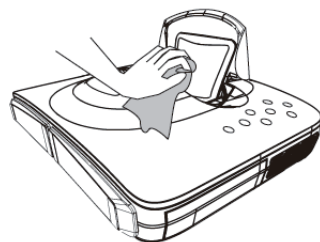
レンズやミラーが傷ついたり、くもったり、汚れたりすると、映像不良の原因となります。

1. 本機の電源を切って電源プラグを抜き、しばらく待って冷ましてください。
2. 右図のようにレンズドア部の両サイドをつかみ矢印に示す方向にクリック音がするまでゆっくりとレンズドア部を開けてください。この時、ミラー本体に手を触れぬようご注意ください。
3. ミラーとレンズを拭く前にゴミや埃をエアブローで飛ばしてください。レンズやミラーに傷をつけないよう注意しながら、市販のレンズ用クリーニングクロスでやさしく拭いてください。
4. レンズドア部の両サイドをつかみクリック音がするまでゆっくりとレンズドア部を閉めてください。この時、ミラー本体に手を触れぬようご注意ください。



キャビネットとリモコンのお手入れ

1. 本機の電源を切って電源プラグを抜き、しばらく待って冷ましてください。その際、レンズドアを必ず閉じてください。
2. 本機が十分に冷えていることを確認し、ガーゼなどのやわらかい布で軽く拭いてください。汚れがひどい場合は、水、または水で薄めた中性洗剤に浸してよく絞ったやわらかい布で軽く拭いた後、別の乾いたやわらかい布で軽く拭いて仕上げてください。



吸気口のお手入れ

本機内部の換気と正常な動作を維持するため、定期的な掃除をお勧めします。

1. 本機の電源を切って電源プラグを抜き、しばらく待って冷ましてください。
2. 本機の吸気口 3 か所を掃除機で掃除してください。

内部の点検とお手入れ

内部にホコリがたまった状態で本機を使用し続けると、火災や感電、故障や映像不良の原因となることがあります。安全なご使用のため、1年に1度を目安に、販売店に内部の清掃・点検をご依頼ください。内部のお手入れは湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。お手入れの費用などについては販売店にご相談ください。